

授業科目名	助産診断・技術学 (2300265)		
時間割名	助産診断・技術学 (70231)		
時間割担当	美甘祥子 岡居久代		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	集中		

授業の目標・概要

1. 産婦の分娩経過や胎児の状態が、正常であるか否かについて独自に判断するための基礎的知識を学ぶ。
2. 産婦や家族にとって安全で満足度の高い分娩となるよう分娩期の助産過程の展開に必要な基本を習得する。
3. 異常分娩時の介補と産婦への援助について理解する。
4. 正常分娩の介助方法の原理について理解を深め、分娩介助時の技術や出生直後の新生児のケアを習得する。

学習の到達目標

1. 産婦の分娩経過や胎児の状態が正常か否かについて判断できる
2. 安全安楽な分娩が遂行できる助産過程展開に必要な基礎的知識と技術を習得する
3. 正常分娩介助方法と出産直後の新生児への助産技術を習得する
4. 異常分娩時の介補と産婦への援助方法を説明できる

授業方法・形式

講義（一部演習）

授業計画

- 第1回 ガイダンス 分娩期の助産過程とは
- 第2回 分娩の生理
- 第3回 分娩経過の診断
- 第4回 胎児の健康状態の助産診断
- 第5回 出生直後の新生児の助産診断
- 第6回 分娩第1期の助産診断とケア
- 第7回 分娩第2期の助産診断とケア
- 第8回 分娩第3期・4期の助産診断とケア
- 第9回 産痛緩和法
- 第10回 事例を用いた助産過程の展開
- 第11回 事例を用いた助産過程の展開
- 第12回 分娩介助技術
- 第13回 分娩介助技術
- 第14回 技術確認
- 第15回 技術確認

成績評価の基準

定期試験90%、質疑応答・授業へのリフレクション10%

授業時間外の課題

復習は必ず行い、わからないところは解決してから次の授業に臨むようにしましょう。また、分娩介助技術の習得には自己学習が必要です。

メッセージ

母子が安全な分娩ができるには、助産診断・助産技術の確実な習得が必要であり、助産師にはその社会的責務があります。その意識を常に持ち、毎回の授業に真摯に取り組んでください。

教材・教科書

我部山キヨ子編、助産学講座7 助産診断・技術学 [2]分娩期・産褥期、医学書院 インターメディカ平澤美恵子 写真でわかる助産技術アドバンス」、日本助産診断実践研究会編マタニティ診断ガイドブック 医学書院

参考書

病気が見える 産科編